



空飛ぶ泥舟 =茶室=

4本のワイヤーで吊り下げられており、地上約3.5mに浮かんでいます。茶室の中には、テーブルと椅子があり、最大で7人の収容が可能です。2010年に茅野市民館主催のワークショップで製作され、2011年に茅野市民館から今の場所に移設されました。

高過庵 =茶室=

地上6mの2本の木の上に建てられています。2004年に建設された「高過庵」は、藤森さんの名を世界に知らしめた代表作となりました。アメリカの「TIME」誌では、「世界でもっとも危険な建物トップ10」に選ばれました。(1位はピサの斜塔)



高部公民館

2021年に完成した高部公民館。4本のヒノキが屋根を貫き、外壁に焼杉を使用した独創的なデザインとなっています。ヒノキの皮むきや照明づくりなどの作業には、大勢の区民が参加しました。



低過庵 =茶室=

半分土に埋まっている竪穴式の茶室で、ピラミッドのような四角錐の形をしています。2層の屋根のうち、上の屋根がスライドして開くようになっています。2017年の縄文アートプロジェクト内で、茅野市民館主催のワークショップとして製作されました。



五庵 =茶室=

東京オリンピック・パラリンピックに合わせて開催された「パビリオン・トウキョウ2021」の一環として、新国立競技場の向かいに期間限定で建てられた茶室です。会期終了により解体されましたが、藤森さんが材料の一部を引き取り、2022年に再建築しました。茶室は焼杉の外壁に囲まれています。



神長官守矢史料館

1991年に建設された藤森さんが自ら手がけた最初の建築物です。外壁はサワラの割板と土壁でできており、屋根には「鉄平石」が乗せられています。正面入口の4本の柱は地元産のイチイの樹が使用されています。



藤森建築を巡る

「特集」

茅野市出身で、世界的に有名な建築家「藤森照信さん」が設計した6つの建築物が、茅野市の高部地区に建てられています。土地固有の自然素材や植物を多用し、自然と人工物が一体となったユニークな藤森さんの作品をご紹介します。



藤森 照信 さん
=建築家、建築史家=

1946年生まれ、茅野市高部地区出身。東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。現在、東京大学名誉教授。工学院大学特任教授。東京都江戸東京博物館館長。

近代建築史・都市史研究を経て1991年に、茅野市神長官守矢史料館を設計し、建築家としてデビュー。これまでに30以上の作品を創造しています。

2011年からは、「茅野市縄文ふるさと大使*」としても活動していただいています。

*歴史・文化・芸術・自然など茅野市の魅力を、広くPRしていただいている茅野市出身または茅野市にゆかりのある著名な方。

— ちの旅アクティビティ — 奇想天外な建築を堪能する『フジモリ茶室』プレミアムガイド

このプログラムは、藤森先生に特別に許可をいただいて、普段は入ることができない「茶室」の内部にも入れる、ちの旅だけの特別なアクティビティです。

- 実施期間 4月～11月(雨天中止)
- 申込締切 10日前
- 所要時間 約3時間(開始時間は、季節によって異なります)
- 定員 6名まで/最少催行3名
- 料金 11,000円(税込)/人
- その他 詳細なプログラム内容等はお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。
- 問い合わせ 一般社団法人 ちの観光まちづくり推進機構 ☎0266-73-8550



Contents

- 02 藤森建築を巡る
- 04 ふるさと納税で快適別荘ライフ
- 07 ピックアップ情報
- 08 情報ネットワーク
- 12 ライブラリー&ミュージアム
- 14 風水害から生命を守りましょう
- 15 休日当番医・市内医療機関

広報ちの夏のおたより号をご覧の皆さんへ 茅野市長からごあいさつ

本格的な夏山シーズンを迎え、緑豊かな蓼科、白樺湖、ハケ岳も賑わう季節となってきました。まだまだコロナ感染症前の生活に戻るには時間がかかりますが、徐々に形を変えながらも、以前のようなイベントや地区の行事なども活動が再開され、賑わいを取り戻してきています。

茅野市では一人ひとりが「幸せを実現できるまち」を普遍的なテーマとし、「たくましく やさしい しなやかな交流拠点CHINO」を目指し取り組んでいます。多くの方が当市を訪れ、滞在し、交流を通じて賑わう、活気溢れるまちを目指しています。

この夏は、自然豊かな当市でリフレッシュいただくとともに、国宝2体を収蔵している尖石縄文考古館や諏訪神社の祭礼に関する古文書も収蔵している神長官守矢資料館などを訪れ、地域の史跡や文化に触れてみてはいかがでしょうか。また、地域の人々との交流を通じ「茅野市の暮らし」についてもお考えいただければ幸いです。

茅野市長 今井 敦